

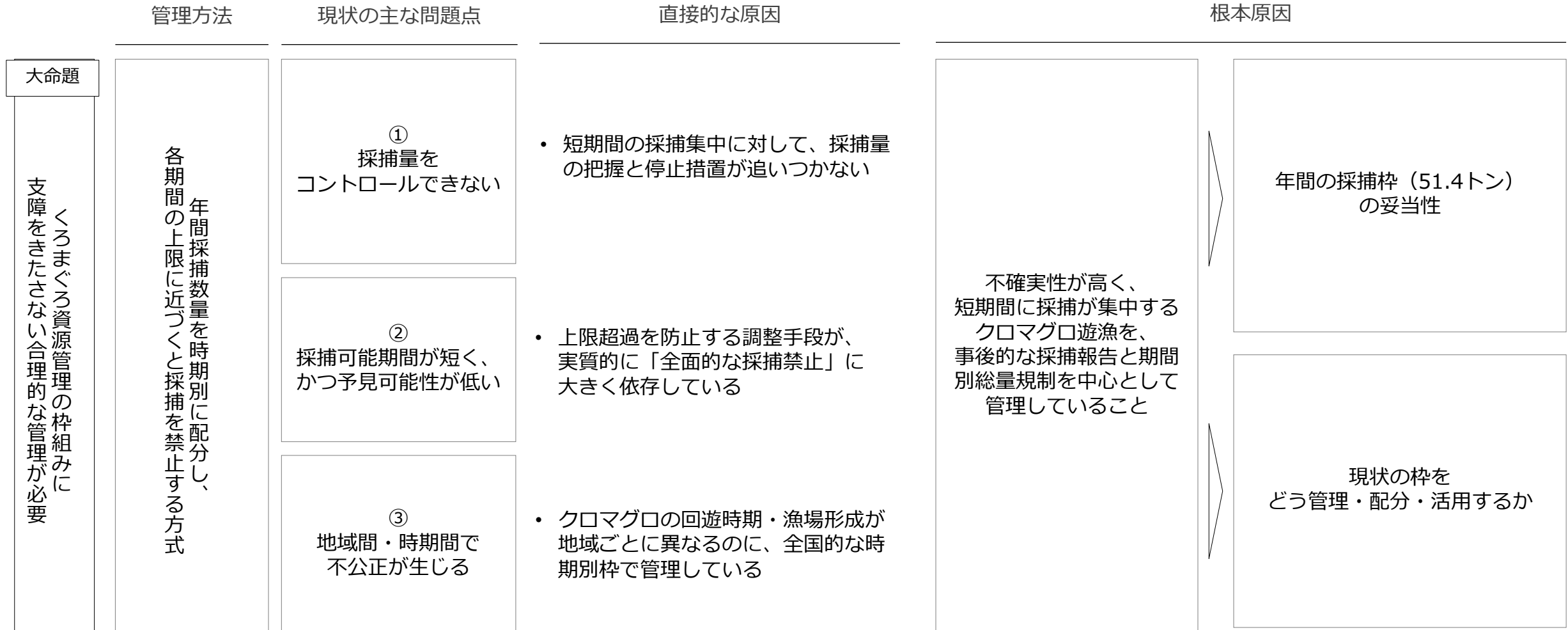
くろまぐろ遊漁適正管理に向けた取り組み

2026年8月19日

一般社団法人日本アングラーズ協会 桜井 駿

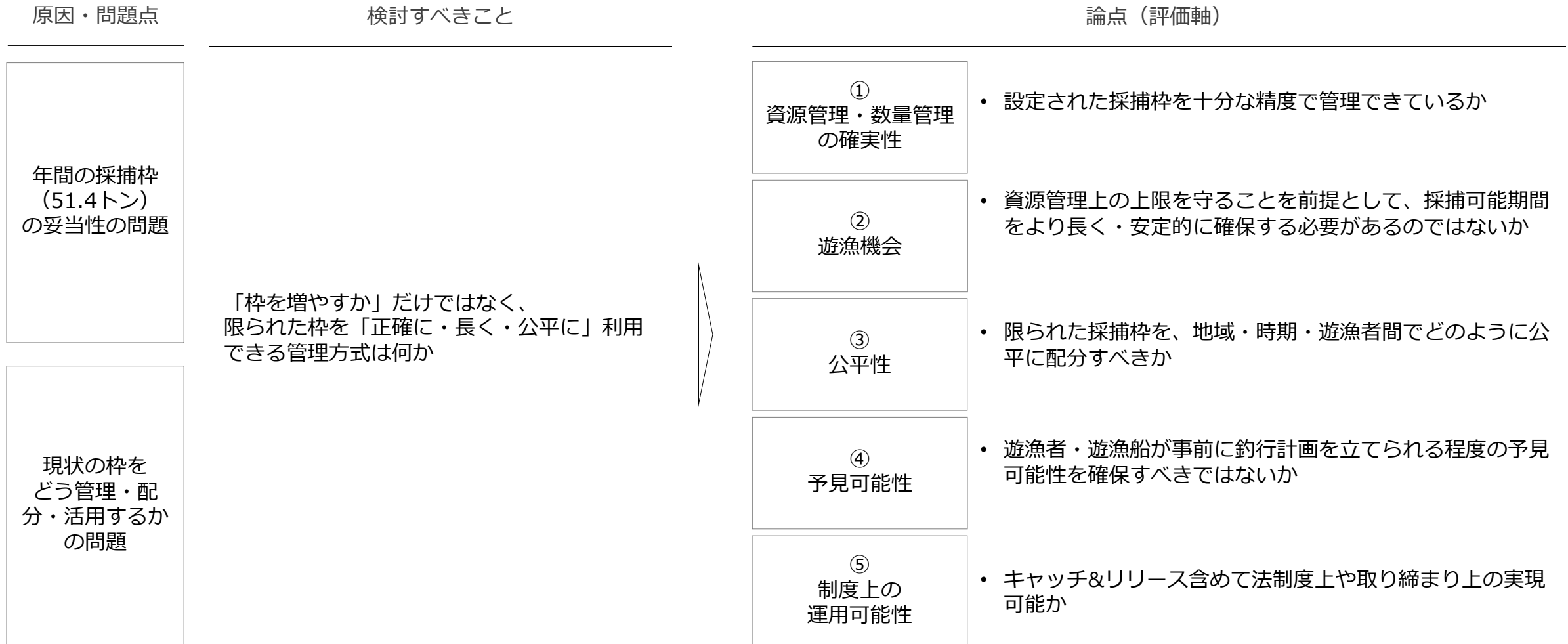
くろまぐろ遊漁を取り巻く現状理解

短期間に採捕が集中するクロマグロを期間別総量で管理している。急激な積み上がりをリアルタイムに制御する手段が限定的なため、採捕量のコントロールや採捕可能期間が短期化するという問題が生じている。



論点・評価軸の設定について

くろまぐろ遊漁の資源管理において、限られた枠を適正かつ有効に活用するための施策について検討する必要がある。検討の際には様々な切り口、論点が想定されることから、共通認識として抑えるべき論点について議論したい。



くろまぐろ遊漁の問題に対する対策

突発的な採捕量の積み上がりや、極端に少なく予見可能性が低い遊漁期間等の主な問題点について、対策の方向性を示す。

現状の主な問題点	検討課題	対策の方向性	
① 採捕量を コントロールできない	採捕速度をどう抑えるか	A 採捕速度を 落とす施策	- バッグリミット1人3尾/年、 月1尾まで - 一艘2尾/日
② 採捕可能期間が短く、 かつ予見可能性が低い	枠をどう配分するか	B 枠を細かく 管理する施策	許可制（抽選制）
	どうリアルタイムに把握するか	C 数量把握を 高度化する施策	（本日対象外）
③ 地域間・時期間で 不公正が生じる	キャッチ&リリースをどう扱うか	D 遊漁機会を 確保する施策	月初10日間船上保持禁止 （キャッチアンドリリース）、10日以降都度採捕

施策評価：A, バッグリミットの強化

現行制度または類似施策との評価を実施し議論材料とする。

	施策内容	数量管理の 確実性	遊漁機会	公平性	予見可能性	制度上の 運用可能性	コメント
現行	採捕者：1人6尾/年まで、※期間 毎2尾 船舶：なし	× 月上限を 大幅超過する月あり	△	○	○	○	—
新施策	採捕者：1人3尾/年、月1尾まで 船舶：一艘2尾/まで日	△？ 上限抑制効果の 定量評価が必要	× 採捕、キープ 機会が大幅減少	○	○	○	新たに船舶ごとへの バッグリミットを導入 することで採捕抑制、 機会均等化を狙う

施策評価：D,二段階指示の導入

現行制度または類似施策との評価を実施し議論材料とする。

	施策内容	数量管理の 確実性	遊漁機会	公平性	予見可能性	制度上の 運用可能性	コメント
現行	なし (上限到達見込みの場合即禁止)	× 月上限を 大幅超過する月あり	× 月初で即禁止に なる月が多発	× 月ごとに遊漁期間に ばらつき	△ 例年の傾向はあるも いつ禁止になるか予 測不能	○	現行制度には課題、問 題点が多数あり
新施策	- 月初10日間船上保持禁止 (キャッチアンドリリース) 10日以降都度採捕	△ 釣果状況の 事前地調査が可能	○ 遊漁機会 が拡大	○ 各月10日間の 遊漁機会の確保	○	△ 運用面で講習や啓蒙 が必要	キャッチ&リリース手法 のさらなる普及が必要

施策評価：D,二段階指示の導入に伴う試験出船

キャッチ&リリース活用に向けて実態調査、現状把握を目的として協力者、協力船を選定の上調査を実施。

キャッチアンドリリース試験協力出船の実施

概要	キャッチ&リリースの実態調査、データ収集のため採捕機能期間にリリース動画の収集を実施する
対象	本専門部会が選定した遊漁船および有識者個人が実施
期間	2026年6月1日以降採捕可能期間のみ実施
収集内容	- キャッチ&リリースの一部始終を記録した動画データ - 海域、目測重量、日時等の放流情報

キャッチアンドリリースの様子

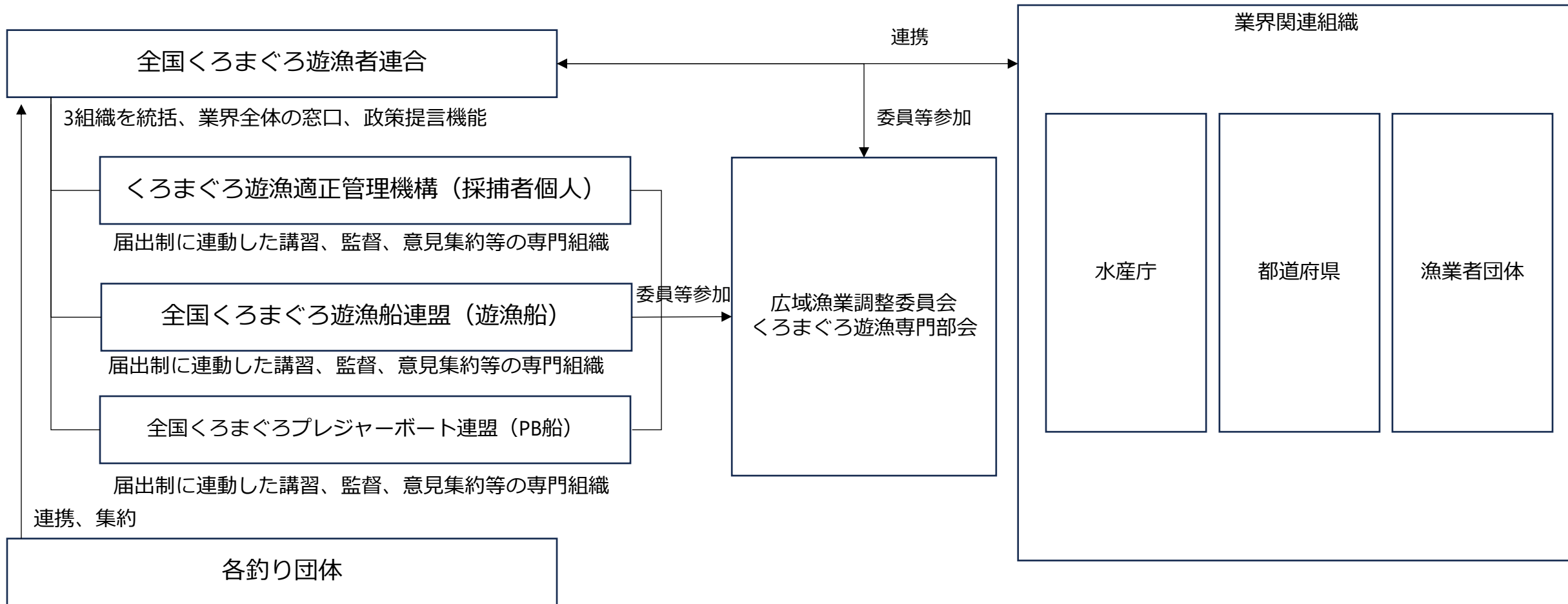


- シングルフックやトレブルフックによるリリースの様子を記録した動画を収集
- 必要な装備と技術があれば小型魚、大型魚共にキャッチアンドリリースの実施が可能
- マグロが元気に海に帰っていく様子が記録されている
- 尚、同様のリリース映像は動画投稿サイト等にも国内外数多くアップロードされており一般的な手法

くろまぐろ遊漁における組織化の取り組み

キャッチアンドリリースの活用はもちろんくろまぐろ遊漁管理の適正化に向けてかねてより懸案事項であった組織化に着手。届出制と連動した組織を構成することで規制内容の周知や、意見集約等を実施する。

※遊漁者側の組織名はすべて仮称



くろまぐろ遊漁における組織化のスケジュール（案）

遊漁者としては、2030年のくろまぐろ遊漁の適正管理の実現（枠の設置及び配分）に向けて、組織化やキャッチアンドリリースなどの各施策について漁業者、行政の皆さんと連携、議論の上推進していきたい。

